

令和3年度第3回（第11期第2回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

○開催日時：令和4年1月13日（木）10時00分～11時30分

○開催場所：ときわ会館5階 小ホール

○出席者名：【委員】若原 幸範議長、加藤 美幸副議長、石田 玲子委員、
井上 久雄委員、内田 崇史委員、桑原 静委員、
小森谷 由紀江委員、佐藤 理恵委員、関根 公一委員、
塚元 夢野委員、林 弘樹委員、溝口 景子委員、
村山 和弘委員、亙理 史子委員

【事務局】（生涯学習部）千葉 裕
（生涯学習振興課）山本 高弘、石田 悦子
清宮 雅貴、高野 未紗
（生涯学習総合センター）中村 和哉
（資料サービス課）野村 明子

○欠席者名：高山 俊介委員

○公開・非公開の別：公開

○傍聴人の数：なし

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 報告事項

① 前回会議について

令和3年度第2回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

② コロナ禍における生涯学習関連施設での取組等について

コロナ禍での生涯学習関連施設の取組について、資料1に基づき説明した。

【質疑応答・意見】

<加藤副議長>

オンライン学習コンテンツについて、市民向けに提供している「学びの玉手箱」及び「e公民館」の合計と児童生徒向けの「学びの泉」との間で件数に開きがあるので、児童向けの充実も図って欲しいと思う。また、コンテンツの追加は現在でも行われているのか。

もう一点、Wi-Fiルータをリースしたとあるが、公民館へのWi-Fi環境の整備については、現在どのような状況になっているのか。

<生涯学習振興課>

オンライン学習コンテンツについては、現在でも各施設で作成し随時追加している。また1件と数えているコンテンツの中でも、内部で細かい内容に分かれてお

り、そこが更新されている例もある。コンテンツ数の算出方法については改めて検討していきたい。

<生涯学習総合センター>

公民館のW i F i 環境については整備・提供できていないのが現状である。ただし、生涯学習総合センターとしても必要性は認識しており、市全体としてのD X化への取組の中で、まずは各区の拠点公民館を中心に整備を進めていきたい。

<林委員>

私が「e 公民館」の動画制作講座に関わってきた中で、各施設で自発的、継続的にコンテンツを作成し、残していこうという意識が芽生えてきているのを感じた。

ただこれがコロナ禍だから便宜的に作成したということではなく、今後も継続的にオンライン学習コンテンツを蓄積して価値化し、運用していくというスタンスとなっていくようにお願いしたい。

<生涯学習振興課>

教育委員会としてもオンライン学習コンテンツの提供は一時的なものではなく、今後も続けていくべき事業として認識している。また、コンテンツ数を増やしていくだけではなく、より検索して利用しやすい形になるよう整備していきたい。

<村山委員>

前回会議で生涯学習ビジョンを記者発表したという話があったが、報道機関での取り上げられ方について聞きたい。

<生涯学習振興課>

昨年3月の教育長定例記者会見において、生涯学習ビジョンの発表を行ったが、残念ながら新聞等での取り上げはなかった。補足として、11月に実施した生涯学習フェスティバルに関しては、読売新聞の埼玉版で取り上げていただいている。

<村山委員>

今後の情報発信の方法についても御検討いただきたい。

<桑原委員>

今後の審議の中で、公民館等施設にW i F i 環境があるかについては大きな要素となると思われるが、今後の整備スケジュール等があれば伺いたい。

<生涯学習総合センター>

拠点公民館より始め、最終的に公民館60館すべてにW i F i 環境を整備することを目指しているが、コストの問題もあり具体的には未定である。

<林委員>

広報に関して、社会教育という分野自体がメディアの目を引くものではなく、具体的な取組に関してでないと、取り上げられにくい。生涯学習ビジョンは社会教育の本質をついてはいるが、文書なので記事としての扱いは小さくなりがちとなる。

公民館へのW i F i 環境の整備に関してもコストの話があったが、具体的にオンライン化して何をするのかという必要性に迫られていれば、必然的に優先して導入されるだろう。

社会教育法にもある居場所づくりや関係性の構築というのが、コロナ禍において特に大事な部分として再認識されている。生涯学習関連施設が何をできるのかとい

うことを具体的に打ち出していかなければならない。

例えば福岡県久留米市の実施しているオンライン公民館は、コンテンツをアップロードするのみならず、普段公民館を活用してないような人へ向けた催し物を定期的に行っており、公民館の価値や、地域の関係性が深まったという声がある。そのような新しい活用の仕方、何のために必要で、何をやっていくのかを示さないと、社会教育は後回しにされてしまう。

<生涯学習振興課>

生涯学習ビジョン、公民館ビジョン、図書館ビジョンは三位一体として大きな方向性を示したところであるが、それをどのように市民に伝え行政を動かしていくのかについては、ビジョンをどう実現していくかという今回のテーマにも関わってくる。ビジョンが何のために必要なのか、どういうことができるのかを見せていく方法を考えていきたい。

オンライン環境の整備に関しては、行政が民間に比べ遅れている部分もあると思う。DXに関しては市として推進しており、我々としてもしっかり進めていきたい。

(2) 協議事項

① 第11期社会教育委員会における審議内容について

第11期さいたま市社会教育委員会において審議する内容について、資料2を基に各委員から寄せられた意見を提示した。

検討テーマは「『さいたま市生涯学習ビジョン』を実現していくための方策について」とし、成果物として提言を作成することで委員の承認を得た。

【意見】

<若原議長>

本日は最初に提言の中身となる部分について検討し、そのあと協議の進め方やスケジュールを議論していくという手順で進めていきたい。

<林委員>

私は今まで他でもいくつかの答申・提言を見てきたが、どれも「改善していきたい」というような、実際どうしていくのかモヤッとしたまま終わっているところが気になっている。我々が熱量を持って取組んだとしても、実際に具現化していくことに繋がらないとすると、モチベーションも上がりにくい。答申・提言といった最終形になる前に、出てきた意見をどうするのか。結果とプロセスを共有し、実現に向けてコミットしていくことが大事だということは先に申し上げておきたい。

<加藤副議長>

たとえば、先の第7期や第8期の提言について、提言を受けて行政がどのように変わったかという部分を示していただけるとありがたい。

<生涯学習振興課>

第7期を例にとると、社会教育に携わる人材育成について御提言をいただき、その結果、国で行っている社会教育主事講習のために確保している派遣予算を拡充し、本市からの派遣人数を増員したことがある。また、提言の内容については生涯学習部内

でも情報共有しており、施設職員の意識向上を図っている。

<若原議長>

作って終わりではなく、今後に生かされるものを作るというイメージを共有しておきたい。

<石田委員>

「『さいたま市生涯学習ビジョン』を実現していくための方策について」というテーマはかなり広いので、具体的なイメージを持つ必要がある。

資料の中に、「地域レベルのビジョンの具体化」という御意見があるが、これまで地域に応じて行ってきた活動から見えてきた課題点をもとに、ゴールを示していくのも良いかと思う。

<若原議長>

地域に即してというのは私の提出した意見だが、生涯学習ビジョンの概念である「人づくり」、「つながりづくり」、「まちづくり」に関連して、例えば公民館ごとの地域レベルで、今後の5年、10年かけてやっていくべきことなどを具体化していくと、市民にも届きやすくなるのではないかと考えた。

<佐藤委員>

テーマについてシンプルに、市民目線で考えることも可能だと考える。

市民のニーズを把握して、さいたま市の社会教育として提供するとなると、前提として市民の要望についてのデータの収集、分析が必要になる。

<林委員>

市民一人一人のニーズも重要だが、学習成果を個人のレベルで自己完結せずに、学んだことを地域で生かしていくという視点もある。さいたま市には多くの優れた人材がいらっしや、学習成果を生かして様々な取組をしている方々もいる。そのような個人レベルでの学びが一本のストーリーとして社会に還元され、地域を担っていく人材の育成に繋がっていくことが大事なポイントとなる。

<若原議長>

学習成果をどう生かすのかは非常に重要な観点である。個人の学びを自身の生活にどう生かすか、そこからつながりづくりにどう生かしていくか、まちづくりにどう生かしていくのか。この辺を具体的に考えることも大事なテーマ、論点となる。

<桑原委員>

市民のニーズとして、地域社会への還元を求められていることはわかるが、学びを生かすと言われても、実際にどうすればいいのかわからないという方は多くいらっしやと思う。

例えば、すでに人材バンクや市民大学などで活動している人たちの事例を伺って、その中からヒントを探っていくという、定性的な調査を行っても良いのではないか。

<井上委員>

実例として紹介するが、私の知り合いに小学校から依頼されて防災ボランティアとして活動していらっしやの方がいる。その方は人材バンク等に登録されてはいないが、そのような形で学習成果を活用した活動を行っている方もいる。

<若原議長>

学習成果の活用事例について数的な把握のみではなく、実際のモデルを提示すると、市民としてもイメージしやすくなる。

<加藤副議長>

生涯学習ビジョンの内容は市民に身近な言葉で作られているが、策定されたばかりで、地域の方々への認知度がまだ低い。例えば既に行っているインターネットの市民アンケートなどを活用してビジョンに関わる調査をしていきながら、周知を図っていくというのものもある。

それと「さいたま市がサポートします」という部分で、各所管が提供している事業が生涯学習ビジョンのどの部分と実際に関連しているのかについて、参加者へ周知をしていくと、現場の職員の理解にもつながると思う。

<若原議長>

職員に生涯学習ビジョンを浸透させるための取組は現在何かあるか。

<生涯学習振興課>

各施設に配布はしているが、職員一人につき一冊とまでは行き届いていない。改めて様々な会議等の場や普段の業務を通して周知徹底し、意識を高めていきたい。

<若原議長>

公民館ビジョンでは各公民館で取組シートを作っていたが。

<生涯学習総合センター>

公民館では林委員に御指導いただき、公民館ビジョン取組シートを各施設で作成した。行政主導ではなく市民の方々と一緒に達成するというところで、ホームページで公開したり館内に掲示したりして、具体的に取組んでいる。

<村山委員>

今まで誤解していたのだが、昨年3月にできた生涯学習ビジョンについて、すでに4月から全市的にビジョンに基づいた生涯学習施策を行っているということではないのか。

<生涯学習振興課>

各所管の施策や事業は前年度に予算要求と計画を行い、翌年度に実施するシステムとなっている。そのため、3月末に完成した生涯学習ビジョンに基づき4月1日からすべての事業を実施するというわけにはいかない。

ただし、そもそも生涯学習ビジョンは本市の生涯学習の大きな枠組みの中での目標として作っており、今年度の事業がビジョンに関係がないというものではない。各所管では既にビジョンの理念に基づいた事業が行われており、それをビジョンに基づいて整理、周知していくことが、今期の段階と御理解いただければと思う。

<生涯学習部長>

生涯学習ビジョンは現状でも各所管の考える鍵として活用されており、例えば博物館では、生涯学習ビジョンをもとに現在の事業を見直し、本年度のアクションプランとして打ち出している。

また、公民館・図書館ではそれぞれのビジョンをもとにしながら、未来の公民館・図書館のあり方について指導者の方をお招きして勉強会を行っている。公民館と図書館がそれぞれ別の立場から連携していくのではなく、融合して活動していくなど、

様々な事例を基にしながら事務局も勉強しているところである。

生涯学習ビジョンを今後どのように展開していくのか、未知数のところもあるが、委員の皆様の御意見を実際に反映させていける土壌が現在進行形で出来てきていると捉えていただきたい。

<若原議長>

未来の公民館・図書館を作るという考え方について、ぜひ社会教育委員会議でも共有していただきたい。生涯学習ビジョンを作る過程でもそうだったのだが、様々なワークショップなどが行われていても、なかなか社会教育委員が関われないので、共有することについて今後工夫していただけるとありがたい。

<林委員>

私は公民館ビジョンの作成にも関わっていて、今年度から具体的に各施設でビジョンに基づいてどんな地域プロジェクトを起こしていくか、職員と地域住民等で地域の課題とか居場所づくりとか、コミュニケーションしていく課題を具体的に掲げ、プロセスを記録していく事業を行っている。

このプロセスと具体的に行っていくことを記録して、地域の人たちにも共有しながら歩いていく道筋自体が評価であり、定性的な歩みの中にあると言える。

今現在足りていない部分も、こういう人とか能力を今、必要としていることも含めてPRしながら、地域資源を生かしていくことが取組と評価測定にも関わらないかと感じている。公民館ビジョンについて補足させていただいた。

<若原議長>

一旦まとめると、まず学びの入口と出口として、市民の側でどういう学習ニーズがあるのかをしっかりと把握した上で、そのニーズに基づいて学んだ成果をどう生かしていくのか、という部分が今までの議論の論点となる。

またもう一つ、生涯学習ビジョンについて市民自身に知っていただくことや、或いは職員にもしっかりと理解していただくことも同時に必要な視点となる。

それらの議論を進めるうえで、例えば会議形式だけでなくワークショップ形式で市民や生涯学習現場の職員、或いはすでに学習成果を生かしている方に入ってもらって、生涯学習ビジョンについて学びつつどう生かしていくかを議論するやり方もある。今後の会議スケジュールや協議の進め方について御意見いただきたい。

また、この定例の会議の場以外にも、機会を設定することがあっても良いかと思うが、そういったことも含めて御意見いただければと思う。

<桑原委員>

会議の形式だと発言する人が偏ってしまい、思う存分発言できないことがあるので、例えばビジョンの方向性ごとのグループに分かれて課題を皆で洗い出すような、今日の検討を元にさらにどの辺が課題なのかをグループに分かれて発言するような機会を設けても良いかと思う。

<小森谷委員>

生涯学習ビジョンは「まちの成長」が大きな目標だが、生涯学習という分野は多岐にわたっている。さいたま市総合振興計画基本計画を読むと様々な分野、市民からの御意見や、ワークショップでの御意見がまとめられているほか、各所管の計画にも

様々な指針があるので、そのような行政側の話も伺いたい。

<生涯学習振興課>

さいたま市総合振興計画基本計画で掲げている各分野でも市民アンケート等をやっているのですが、その結果を御提示できるよう準備したい。

<塚元委員>

私もワークショップを行い、実際の生涯学習の取組から洗い出していくのが良いと思う。例えば実際に行った事業を例に挙げ、実際に担当や講師に来ていただき、申込方法やチラシの作成など具体的なところから改善案を練って提言を作成していくというやり方はいかがか。

<林委員>

ワークショップには「生涯学習」という言葉を使わずに、必然的に参加したくなる場の設定やネーミング、取組内容を作りたい。取組みながらコミュニケーションも生まれ、意見も収集できる場の設定ができれば市民は参加してくれると思う。

市長部局との連携も、課長レベルでの会議を持っているというだけではなく、ともに取組んだりコミュニケーションが生まれたりしない限り実現は難しいと感じる。

<若原議長>

今までの議論だと、ワークショップ形式の進め方が有力かと思われる。またその際のテーマや、或いは参加者を考えても市民の目線が一つ重要だということ、もう一方で職員に入ってもらう形など、パターンが複数あった方がいい。それに付随して、これまでの提言でも行っていた視察や、ヒアリング等を組み合わせながらワークショップを軸に詰めていくというのが、全体的な御意見だと思う。

<生涯学習振興課>

本日も多種多様な角度から御意見をいただいた。一度事務局で御意見を整理して提示するので、次回会議にて協議決定していただきたい。

(3) その他

各種社会教育関係協議会・大会について、資料3を基に報告を行った。また、令和3年10月に発行したSDGs PRシートについて委員に紹介した。

【質疑応答・意見】

<村山委員>

SDGs PRシートが178部の発行ということで、冊子へ広告など掲載して次年度以降発行部数を増やす試みを行ってはどうか。

<生涯学習振興課>

SDGs PRシートは各施設で閲覧用に設置しているほか、市ホームページ上でも公開している。冊子への広告掲載に関しては、他の事例を参考に研究してまいりたい。

4 閉会

以上